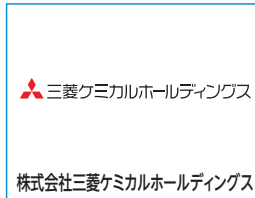


DBJ環境格付融資



環境配慮を始めとする、サステナブル経営における重要課題の取り組み及び財務情報との統合的情報開示を評価
【2004年度開始】
累計525件／約9,540億円

2013年度



2014年度



2015年度



サステナブル経営を 金融の力でサポート ESGの取り組みを企業価値に

日本政策投資銀行（DBJ）は、2001年に邦銀として初めて国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）の金融機関声明に署名しました。2004年には、UNEP FI東京ラウンドテーブルに合わせ、独自の評価システムを用いた世界で初めての融資メニュー「DBJ環境格付融資」を開始しました。

以後「DBJ BCM格付融資」、「DBJ健康経営格付融資」など評価認証型融資メニューの充実を通じて、企業の非財務的価値に金融面からアプローチしています。また、「DBJ Green Building 認証」や「DBJ ビジヨナリーホスピタル」などのプログラムも多様化しています。

さらに、環境・社会的意義の高いプロジェクトへの投資機会を提供すべく、2014年に本邦発行体として初のユーロ市場におけるグリーンボンドを、翌2015年にはサステナビリティボンドを発行しました。その資金は、「DBJ Green Building 認証」や「DBJ環境格付」の融資の一部に使われています。DBJは今後も金融面からサステナブルな社会の実現に努めていきます。

マーティン・ミルズ 氏

バンクオブアメリカ・メリルリンチ・欧州グリーンボンド債券資本市場部責任者

2014年のグリーンボンドに次ぐ第1回ユーロ建サステナビリティボンド*の発行によって、日本政策投資銀行の、急速に拡大するSRI債発行市場におけるリーダーの位置付けがより明確になったと考えています。またSRI投資家を含め投資家層の多様化にも成功しました。



*2015年10月発行、300万ユーロ、主幹事：バンクオブアメリカ・メリルリンチ、モルガン・スタンレー、J.P.モルガン、ゴールドマン・サックス・インターナショナル
*SRI：Socially Responsible Investment（社会的責任投資）
*BCM：Business Continuity Management（事業継続管理）

Message

DBJ健康経営格付融資



従業員の健康を経営課題に位置付け、その維持・増進を図る体制づくりと生産性向上に繋がる戦略的取組を評価
【2011年度開始】
累計75件／約854億円

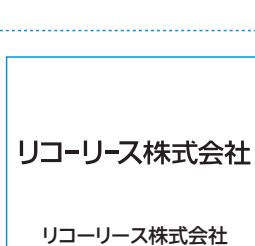
2011年度



2012年度



2013年度



「金融の力」で21世紀の国造りを

京都議定書から18年。昨年12月のCOP21で採択されたパリ協定は歴史的合意となった。初めて2℃目標が明記されたばかりか、1.5℃の努力目標まで書き加えられた。もっと驚くべきは21世紀後半の事実上の排出ゼロである。

日本では存外知られていないのだが、COP21の成功の陰の立役者はビジネス界と並んで金融界であった。温暖化の被害に危機感を募らせる金融界が環境金融に本腰を入れ始めたのだ。

さて、戦後の復興から今日までの日本の発展ぶりを振り返ると、いつもそこには金融で支えるDBJの姿があった。低炭素化から排出ゼロを実現するには経済も社会も大きく転換させねばならない。21世紀の国造りだ。DBJにとって新たな出番到来である。DBJはその金融機能を駆使して持続可能な国造りに邁進してほしい。



国連環境計画・金融イニシアティブ
UNEP FI特別顧問
末吉 竹二郎 氏

DBJ Green Building 認証



都市インフラとして長期利用可能な、環境・社会への配慮がなされた不動産を認証し、支援。認証累計約300件。

DBJビジヨナリーホスピタル



医療の質の維持・向上、環境配慮、事業継続対策に優れた病院をビジヨナリーホスピタルと認定し、支援。

上記は、「DBJ環境格付融資」「DBJ BCM格付融資」「DBJ健康経営格付融資」をご利用いただいたお客様の一部です。当融資は、スクリーニング票とヒアリングにより「体制整備」や「運用状況」を評価させていただいております。評価は一時的なもので株式会社日本政策投資銀行が一切の保証をするものではありません。データは、2016年3月末日現在です。

DBJ BCM格付融資



あらゆる危機的事象に直面しても、従業員の命を守り、事業を継続し続ける経営戦略と対応力を総合的に評価
【2006年度開始】
累計233件／約2,825億円

2010年度



2011年度

